

## 馬淵君のメッセージ

「こおろぎ」191号で紹介した馬淵君が、4年前に行われた「不完全なあなたへ」の出版記念パーティーのときにスピーチしてくれたDVDがあります。

彼は病気について一言も言いませんでしたが、このスピーチのときにはすでに「5年後の生存率は5%以内」と告知されていたそうです。本当は一人でも多くの方にそのDVDを見てもらいたいのですが、それも難しいので彼のスピーチをご紹介します。

私が経験してきたことで、お話ししたいことがあります。「努力」ということについて、話をさせてください。皆さんは、「困難な道」と「楽しい道」があったら、どちらを選びますか？

たいていの人は、「楽な道」を選びます。でも、困難な道の先に何かあるか分かれれば、困難なほうを選びます。困難な道のあとには、「達成感」とか「喜び」とかがあります。人生というものは、苦しいことの連続で、苦しさのあとに楽しいことがあるから、楽しいのだと思います。どうか苦しいことから逃げないでください。苦しいことに、あえて立ち向かい、そして乗り越え、そのあとの達成感を味わえば、また挑戦してみようと思えると思います。

私は、ずっと病気を苦しんできました。でも、死ぬほど苦しんで、死ぬほど努力をして、達成感を味わって今があります。だから、皆さんも困難に立ち向かっていく勇気を持って、あえて困難なほうを選んで、これからの人生を生きていってください。ありがとございました。

私は、彼の姿とこの言葉をもう一度、心に刻もうと思っています。この言葉こそ、彼の生き方そのものでした。

## 最期に求めるもの

皆さんは、もし余命幾日もなくなり、目も見えなくなったとき、最期に何を求めるでしょう？

私は、家族や親しい友人など、本当に大切な人との時間を求めると思います。

どんなにお金を残すよりも、涙が出るほど大切に思える人がいてくれることのほうが、その人の人生は、豊かだと思うのです。

しかし、多くの人は人との縁をつなぐことよりも、お金を追い求めて家族や友人に手紙を書くこともせずに、あくせくしている気がしてなりません。

馬淵君に一万羽の折り鶴が集まったのは、事業で成功したからでもありませんし、大金を残したからでもありません。

皆さんは、最期に何を求めるでしょう？

杉井様のお葉書を拝読し、「有名無力。無名有力」という箴言を思い出しました。弱者に対する接し方で、その人の人格が伺われると思います。

人は皆、弱いからこそ互いを思いやる術を学べるのだと思っています。

地位や名誉、お金などは余り物であることを忘れている人が多い気がします。

藤田秀人様

## サンタさんへの願いごと

私は20年間、自ら会社を経営する傍ら、色々な会で経営について講師をさせていただいてきました。そうした体験を通して感じることは、「経営の勉強をしない経営者が増えた」ということです。

バブルの頃は、「自社を伸ばしたい！」という意欲に燃えて経営を勉強する人がいましたが、バブルが弾け、景気が低迷するようになると、即効性のありそうな研修や、誰かを崇拜する宗教のような勉強をする人はいても、自分で考え、コツコツ工夫していく地道な経営を身につけようとする人が減った気がしてなりません。せっかく経営を学ぶ会に入っても、会の役職をやることで満足して、本来の目的である経営の勉強をしている人は本当に少ないと思うのです。

これはお勤めの方にも言えることだと思います。このところ世界的な経済不安が言われていますが、童話の「アリとキリギリス」を読んだことのある人なら、いつか冬が来ることは容易に予想されることだと思います。冬が来るのが分かっているのなら、冬の中でも生きていけるための努力をしておく必要があるだろうと思うのです。

馬淵君はガンを告知されてからも、いつも通り始業時間の一時間以上も前に会社に出勤して仕事を続けました。痛みがひどい日には、病院で痛み止めを打ってもらって、そこから会社に向かいました。彼にとって働けることは、辛いことや苦しいことではなく、生き甲斐だったのです。

「こおろぎ」190号で紹介したガンと戦っている少年、高遠翼君は、自分と同じように病気で苦しむ子ども達の力になるために、医師を目指しています。入退院を繰り返し、学校にも通えない状態なのに、朝、目が覚めると彼はすぐに医者になるための勉強を始めます。

社員さんの生活を預かる経営者が、子どもの幸せを願う親達が、彼らのようにひたむきに生きていますでしょうか？

私は、馬淵君や翼君の生き方を見て自分が恥ずかしくなります。

昨年のクリスマスに高遠翼君がサンタクローズにお願いしたプレゼントを聞いて、私は胸が張り裂けそうになりました。彼が書いた願いごとは、「サンタさん、ぼくに時間をください」だったのです。

右の葉書は、馬淵君同様、私の出版記念パーティーのときにスピーチしてくれた女性からいただいたものです。

彼女には知的障害を持つ娘さんがいます。彼女自身も精神障害を負いながら、二人で支えあって暮らしています。

病気があって仕事もしにくい状況ですが、子どもは母を気遣い、母は娘を気遣って生きているのです。

世界中に「幸せになりたい」と願う人は、たくさんいます。しかし、幸せな人生を築くために、努力を積み重ねる人は本当に少ない気がします。

口では社員さんが大切、家族が大事と言いますが、結局、私は楽なことばかり求めている気がしてなりません。

私達にとって、本当に大切なものは何なのでしょう？

秋頃、子どもが職業訓練高校に入りたと言いました。生活のことが気になってずっと言えずにいたようです。私の力で高校に行かせられるか不安ですが、笑って「頑張つてね」と言いました。車もやめて、何とか少しずつもお金を残し、受験までにお金を貯めたいと思っています。高校へ行くと決めてから、勉強をしてくれています。娘にお金の心配をかせきたかなあと思いました。私たちは元気にやっています。いつもお便りありがとうございます。